

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	A Study on Effective Support of People's Daily and Working Life in Ageing Society
著者(和文)	HamidoSahar
Author(English)	Sahar Hamido
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12130号, 授与年月日:2021年9月24日, 学位の種別:課程博士, 審査員:顧 秀珠,井上 光太郎,妹尾 大,鈴木 定省,青木 洋貴,伊藤 譲治
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12130号, Conferred date:2021/9/24, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名		Sahar Hamido	
		氏名	職名		氏名	職名
論文審査 審査員	主査	顧秀珠	准教授	審査員	青木洋貴	准教授
	審査員	井上光太郎	教授		伊藤謙治	学外審査員
		妹尾大	教授			
		鈴木定省	准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「A Study on Effective Support of People's Daily and Working Life in Ageing Society」と題し、現代の高齢化社会で問題となっている高齢者の健康管理、および高齢者の効果的な雇用に対し、人間工学的な観点から有効なサポートシステムを提案することを目的としている。これらの問題に関連する実験や現実のデータを分析することで、提案したサポートシステムの有効性・妥当性を実証的に評価、考察したものであり、以下の6つの章からなっている。

Chapter 1 Introduction においては、関連する研究のサーベイにより高齢者の健康管理と雇用に関する活用をサポートするシステムを概括し、人間工学に基づくサポートシステムの必要性について述べ、本論文の目的を述べている。

Chapter 2 Activity Self-monitoring Impacts among Senior Persons under COVID-19 Pandemic では、高齢者の健康維持・向上に着目している。非侵襲の装着型センサを身につけた30名の高齢トライアル参加者から活動・生体計測データを12週間連続的に自動収集し、毎週の定期的なアンケート調査から高齢者の意識変化と共に、センサによる計測およびフィードバックの効果を解明している。実験中に新型コロナウイルスのパンデミックという状況になり、様々な行動が制限されている時期におけるセンサによる計測およびフィードバックの効果を検証している。

Chapter 3 The Effects of Self-monitoring Physical Activity on The Awareness and Behavior of Young People では、若年時の運動習慣が高齢時にも継続されることを背景に、現状での若年層の運動不足、および若年時の運動習慣に焦点を当てている。高齢者実験と同様に非侵襲の装着型センサを身につけた36名の大学生から活動・生体計測データを12週間連続で自動収集し、定期的なアンケート調査から得られたトライアル参加者の意識変化と共に、センサによる計測およびフィードバックの効果・問題点を明らかにしている。

Chapter 4 The Different Effects of Activity Self-monitoring between Young and Older People では、Chapter 2 と Chapter 3 において高齢者と若年層から得たデータを比較することにより、高齢者は若年層よりセンサによる計測およびフィードバックの効果が高いことを明らかにしている。

Chapter 5 Occupational Truck Driver Employment and Driving Safety in Ageing Society では、高齢ドライバーによる事故が懸念される中、高齢ドライバーの継続雇用の可能性を判断するための基本情報を提出することを目指している。トラック輸送業の26社、合計306名のトラックドライバーから得た現実的状况に関する調査データに基づき、若年層と比較したときの高齢ドライバーの安全性の評価、高齢ドライバーの安全に関わる個人要因、そして業務に関連する要因の影響を解明している。

Chapter 6 Conclusions では、本論文で得られた「センサによる計測およびフィードバックの効果」や「高齢ドライバーの安全に関わる要因」などの重要な成果を総括するとともに、これらの成果の個々の高齢者の健康管理、および企業における高齢者雇用の可能性とその実施施策に対する考察、提言を加えている。この章ではさらに、本論文で適用した個々の研究内容、そこで利用した方法の限界、そして残された課題についても述べている。

以上、これを要するに、本論文は現在社会問題となっている高齢社会の高齢者の健康管理、および高齢労働力の効果的活用に対し、人間工学的な観点から有効なサポートシステムを提案するものである。実験や現実のデータを用いて、これらのサポートシステムの有効性・妥当性を実証的に示しており、学術的貢献がある。さらに、本論文で提案したサポートシステムは将来の社会的利用に役立つことが期待される。よって、本論文は博士(学術)の学位論文として十分価値あるものと認める。

注意: 「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。